

VI 智恵の「都」をつくる

～すべての県民が、生涯良く学び続けられ、
奈良の歴史文化に親しめる地域をつくる～

18 教育の振興

- (67) 県立大学の教育の充実
- (68) 県立医大教育の充実 県立医大教育将来像の深化
- (69) 県と大学との連携、県立大学・県立医大と他大学との連携強化
- (70) 県立高校教育の充実、実学教育・インターンシップの推進
- (71) 私学の振興
- (72) 教育ICTの推進
- (73) 第2期奈良県教育振興大綱の推進

19 文化の振興

- (74) 文化の振興
- (75) 文化観光推進・歴史追体験
なら記紀・万葉プロジェクトの継続展開
- (76) 文化財の保存と活用
- (77) 飛鳥・藤原の世界遺産登録
- (78) なら歴史芸術文化村の活用

20 海外との交流展開

- (79) 国際交流の強化・拡大と東アジア地方政府会合の充実発展

18 教育の振興

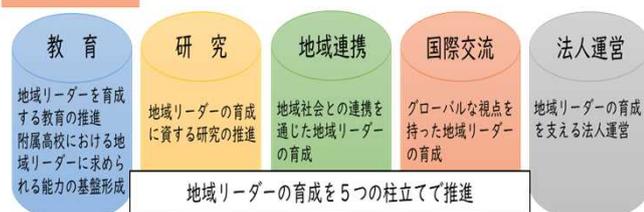
(67) 県立大学の教育の充実

ここまで良くなってきました

第2期中期目標を策定しました。
(目標期間: R3~8年度)

- 「地域の経済・社会・行政等の分野で活躍する地域リーダーをつくる」ことを目標に、その人材輩出のため、5つの柱立てで推進
- R3年度より第2期中期目標による法人運営を開始

奈良県立大学



県立大学の教育環境の充実を進めています。

- R2年8月、少人数対話型教育(コモンズ教育)を実践する施設としてコモンズ棟を整備
- R2年6月、地域創造研究センターを設置し、R3年度より新たにURA(リサーチ・アドミニストレーター)を配置



コモンズ棟(外観)



コモンズ棟(建物内)

もっと良くするために

工学系第2学部の設置に向けた検討を進めます。

- 県立大学工学系第2学部の設置(三宅町)に必要な基本計画等を策定

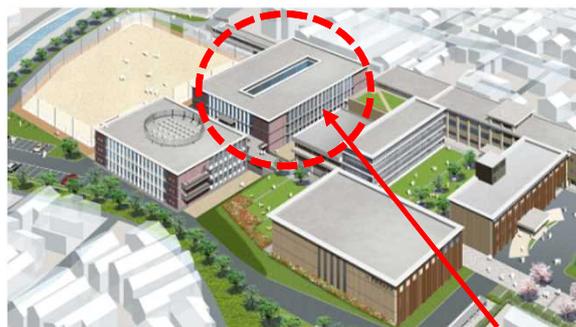
※現キャンパス(奈良市)でのR7先行設置を目指す

令和4年4月に県立大学附属高等学校を開校し、高度な高大接続を推進します。
(254百万円)

- 県立大学教員によるフィールドワーク等の探究学習や、ICT活用教育やライフキャリア教育を展開するとともに、県立大学の講義やゼミに参加し、単位認定を行うAPプログラムの導入や、他大学への進学を目指す生徒にも、その進路を実現するための学習指導を実施

県立大学の教育環境の充実を進めます。

- 県立大学で様々な業務運営を実施(463百万円)
 - ・「少人数対話型教育(コモンズ制)」により、地域に貢献できる優れた人材を育成
 - ・国内外における「フィールドワーク」により、引き続き地域課題に主体的に取り組む人材を育成
 - ・地域創造研究センターを運営し、共同研究等を推進
 - ・外部研究者等との共同研究の推進 等
- (仮称)教育研究棟やクラブハウスの施設整備(114百万円)[債務負担行為 157百万円]



(仮称)教育研究棟

令和4年度予算案 831百万円 [債務負担行為 157百万円]

(68) 県立医大教育の充実 県立医大教育将来像の深化

ここまで良くなってきました

令和元年度から6年間の第3期中期目標・中期計画を定め、**医大の改革**をさらに進めてきています。

奈良県立医科大学の将来像(教育分野の理念)

豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

(医大への期待)高度医療、急性期医療から慢性疾患に対応

- 最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」を育成（「心・知・技」を併せ持つ人材を育成）
- 県内基幹病院として、地域医療の充実へ貢献

高度医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療における患者の理解と、自己選択を促すコミュニケーションを習得する学習 ・臨床研究中核病院の認定取得 ・質の高いがん治療実施比率の向上 	 <p>E病棟の高度医療機器</p>  <p>医大屋上のヘリポート</p>  <p>医大での臨床手技実習の様子</p>
急性期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期医療における患者の理解と受容を促すコミュニケーションを習得する学習 ・特定行為研修を修了した看護師数の増加 ・ER型救急医療体制の確立 ・災害医療チームの育成 	
慢性疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に寄り添うコミュニケーション学習 ・特定行為研修を修了した看護師数の増加 ・総合診療科に在宅医療部門設立 	

もっと良くするために

第3期中期目標・中期計画の進捗管理を行うとともに、第3期中期目標達成に向けた**取組・運営に対する支援**を行います。

○県による第3期中期目標・中期計画の進捗管理(2百万円)

「医大の将来像実現推進会議」を年に複数回開催し、県立医科大学のPDCAマネジメントサイクルを推進

○第3期中期目標達成に向けた取組と運営に対する支援(5,328百万円)

県立医科大学の第3期中期目標達成に向けた取組と大学・病院の運営に要する経費に対し、運営費交付金及び中期目標達成促進補助金等を交付

【運営費交付金】

医師・看護師の養成等業務運営に必要な経費の財源に充てるため、県立医科大学に対し運営費交付金を交付

【中期目標達成促進補助金】

第3期中期目標の達成に向け、県が重点的に促進する県立医科大学の取組に対し補助(主な対象経費)・心の教育を実現するための講座(「医師・患者関係学講座」)の運営経費

- ・奈良学・在宅医療学の運営経費
- ・在宅医療支援センターの設立・運営経費 等

令和4年度予算案 5,330百万円



(69) 県と大学との連携、県立大学・県立医大と他大学との連携強化

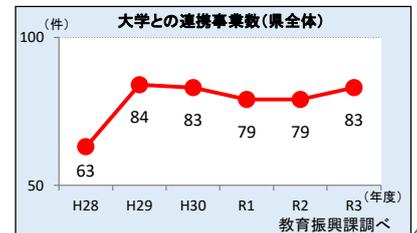
ここまで良くなってきました

中国清華大学(R1年～)、スイス・ベルン応用科学大学(R1年～)、スイス・リース林業教育センター(H28～)との連携を進めています。

- 中国清華大学と、覚書に基づく交流を進めるため、WEB会議などを活用し、奈良の歴史文化資源を活かした文化・芸術分野での交流等、具体的な交流事業について協議を進めました。
- スイス・ベルン応用科学大学と、高齢化社会の課題や取組などに関する意見交換等を実施しました。
- スイス・リース林業教育センターの協力を受け、森林管理を担う人材を養成する「奈良県フォレスターアカデミー」をR3年4月に開校しました。

大学との連携を進めた結果、県全体の大学との連携事業数を80件程度で維持しています。

- 早稲田大学(H20～)及び近畿大学(H28～)とは、包括的な連携協定に基づき、今までに67件の事業を行っています。
- 県立大学では他大学や研究機関、地域と連携した共同研究を行っています。
- 県立医科大学では、早稲田大学と連携カリキュラムを実施しています。また、奈良先端科学技術大学院大学と工学の共同研究を進めています。



もっと良くするために

中国清華大学との交流事業を進めます。(180百万円)

- 清華大学芸術博物館において奈良の歴史文化資源を活かした展覧会を開催
- 展覧会の会期中に、北京市内でフォーラムを開催
- 専門家及び学生等の交流を実施



清華大学との覚書締結

早稲田大学、近畿大学との連携事業を展開します。(10百万円)

- 大学の高度な知的資源を活用し、重要かつ専門的な知識を必要とする県政の様々な課題への対応策を検討・実施するため、早稲田大学、近畿大学と連携した事業を展開
- ・奈良県版シュタットベルケ創生に向けた可能性検討事業



電気の地産地消

NAFICとBCC※(バスクカリナリーセンター)との交流事業を進めます。(8百万円)

- NAFICの教育水準の向上並びに奈良の食のイメージアップを図るため、BCCと協定を締結し、交流事業を展開



バスクカリナリーセンター

- ・BCC講師によるNAFICでの特別講座
- ・BCC講師によるNAFICでの県内料理人向けデモンストレーション

※BCC・・・スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門大学

- ・奈良っ子食育プロジェクト



農業体験

調理体験

令和4年度予算案 198百万円

(70) 県立高校教育の充実、実学教育・インターンシップの推進

ここまで良くなってきました

質の高い**職業人材の育成**に取り組んできました。

- 企業(DMG森精機(株)・関西電力(株))の協力を得て県立工業高校での実学教育を展開
- 企業と連携した人材育成プログラムを実施



DMG森精機(株)による実習



関西電力(株)による現場実習

県教育委員会では**学校再編を実施し、特色ある学校の創出**を進めてきました。

- R2年度に国際高校、R3年度に奈良商工高校、高円芸術高校、商業高校、奈良南高校が開校

インターンシップの推進及び**仕組みの構築**を図ってきました。

- インターンシップコーディネーター等をキャリアサポートセンターに配置し、インターンシップ推進のための体制を充実
- プロフェッショナル型インターンシップ(有給による期間を含む)の仕組みの構築、実施(試行)

令和4年度に**全ての県立高校の耐震化が完了**する見込みとなりました。

- 全ての県立学校の普通教室で空調設置が完了
- R3年2月に「奈良県立学校施設長寿命化整備計画」を策定

もっと良くするために

地域社会で即戦力となる**職業人材の育成等、実学教育の充実**に取り組んでいきます。(4,437百万円 [債務負担行為 301百万円]、R3・2月補正 10百万円)

- 「専攻科」の設置
 - ・宇陀高校…介護福祉士、奈良県版ラヒホイタヤの育成
 - ・奈良南高校…2級建築士、2級土木施工管理技士、測量士補の育成
- 専門教育の充実
 - ・企業と連携した人材育成プログラムのブラッシュアップ
 - ・企業実習を通して、知識や技術を身に付けることを目指す「奈良県版デュアルシステム」の促進
- 新たなコースの充実
 - ・奈良北高校数理情報科…奈良先端科学技術大学院大学との連携協定に基づく取組の拡大
- 奈良商工高校、王寺工業高校、御所実業高校と、県立大学工学系第2学部との接続の仕方を検討
- フォレスターアカデミーの運営
- ONAFICにおいて新たなカリキュラムの導入による進路に応じた「食」と「農」の担い手を育成
- 職業訓練校(県立高等技術専門校)
- 保育士、看護師等の養成



宇陀高校専攻科実習風景

インターンシップなど**学職接続を重視したキャリア教育の充実**を図っていきます。(13百万円)

- 高校生合同企業説明会の開催による県内企業とのマッチング
- 県内高校生を対象にスタートアップマインドを育むプログラムの実施
- キャリアサポートセンターにインターンシップコーディネーター等を継続配置、インターンシップ等の受入企業の拡大

県立学校施設の長寿命化対策を進めます。(1,645百万円 [債務負担行為 282百万円]、R3・2月補正 46百万円)

- 県立高校の耐震化
- 県立学校施設の維持修繕工事等
- (新)県立学校施設の長寿命化対策
 - ・長寿命化整備に向けた老朽・不具合箇所等の調査を実施
 - ・トイレ洋式化の推進
 - ・特別教室への空調設置の推進

令和4年度予算案 6,095百万円

[債務負担行為 583百万円]

令和3年度2月補正予算案 56百万円

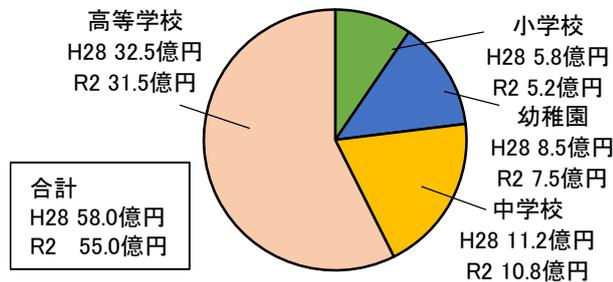
(71) 私学の振興

ここまで良くなってきました

本県では私立学校の運営費に対し補助を行ってきました。私学教育の質の向上のため「政策推進助成制度(学校提案型加算、政策推進加算)」を導入し、特色のある取組に対し加算を行っています。

- 学校提案型加算…特色ある取組を学校が提案し、審査委員会で採択された場合に加算
- 政策推進加算…県が私学に求める項目について具体的な取組を実施した場合に加算

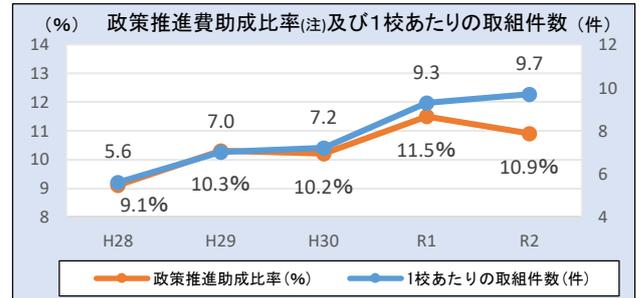
各学校の生徒数や教職員数等に基づく運営費補助の割合



政策推進助成の金額や比率、取組件数は増加傾向にあります。



※ R2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校提案型加算を中止



(注)政策推進助成比率(%)=政策推進助成額(円)÷私学経常費補助金(円)

もっと良くするために

引き続き、私学に対しては、運営費補助や授業料等の軽減補助等の活用により、**教育の質の向上**を図ります。

○私立学校に対する運営費補助(経常費補助) **(6,150百万円)**

- ・公教育の一翼を担う私立学校に対し、教育条件の維持向上や、学校経営の健全性の向上を図るため、私立学校の経常的な経費に対して補助

○私立高校等授業料等に対する支援 **(3,653百万円)**

- ・家庭の経済事情のために進学を諦めることのないよう、私立学校に通う学費負担者に対して授業料等を補助(R2年度から授業料に加え、施設整備費等も対象とし、補助額を拡大)

○その他、心身障害児の受入支援やスクールカウンセラーの配置支援等、様々な補助制度を活用

第2期教育振興大綱を推進するため、政策推進助成は引き続き、**10%程度を維持**し、取組件数の増加、取組内容の充実を図ります。

○政策推進加算項目を見直し、就学前教育における体験活動や国際化教育の取組等に加え、さらに特色のある取組を推進

○事例紹介や取組内容の事前相談を実施



国際バカロレアの実践

令和4年度予算案 9,803百万円

(72) 教育ICTの推進

ここまで良くなってきました

「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(R3年10月文科省確定値公開)において、**教員のICT活用指導力の状況の結果が、前年度より大幅に上昇しました。**

- <全国45位→16位>教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力
- <全国46位→12位>授業にICTを活用して指導する能力
- <全国45位→16位>児童生徒のICT活用を指導する能力
- <全国45位→15位>情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

教育ICT環境の改善

- 県域統一ドメインで1人1アカウント環境を構築しました。
- 小中学校において教育用端末の県域共同調達を行い、1人1台での活用が始まっています。
- 県立学校インターネット回線及び校内LANの高速大容量化を行いました。
- 県域で利用できる統合型校務支援システムを構築しました。

教員のICT活用指導力向上

- 1人1台環境に対応した教育を行うための教員研修を実施しています。
- 研修リーダーとなる人材の育成を行っています。



オンラインで教員研修を実施する様子

もっと良くするために

本県の教育課題の解決を図るため、クラウドベースの情報通信技術を導入し、活用することで、**教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進**します。

教育情報の電子化

- 統合型校務支援システムの市町村立学校における導入を支援(3百万円)

児童生徒へのICTを活用した教育の充実

- 電子黒板を活用した授業の実施
※ R4年度分(165百万円)
- 授業目的公衆送信補償金(9百万円)

教員のICT活用指導力の向上 児童生徒への情報教育の充実

- 県立学校指導用端末配備
(R3・2月補正134百万円)
- デジタルシティズンシップ教育の充実(情報モラルの指導・メールやSNSの利用等)
- ICTを活用して情報化を推進する教員リーダー「STEAM教育エバンジェリスト」の育成
(1百万円)

ICT機器等の維持管理 ネットワークの整備・運用

- 県立学校教育用端末・校務用端末等の保守・管理・整備(476百万円)
- 県立学校学習用ネットワークの整備(13百万円)
- 県立学校インターネット回線の運用(8百万円)
- 家庭学習用モバイルルータの整備・貸与
(1百万円)

Google社等との連携

- パートナー自治体プログラム
- GIGAスクール運営支援センターの整備
(R3・2月補正 134百万円)



令和4年度予算案 676百万円
令和3年度2月補正予算案 268百万円

(73) 第2期奈良県教育振興大綱の推進

ここまで良くなってきました

県の教育の振興に関する総合的な施策の大綱を定めた、「第2期奈良県教育振興大綱」を令和3年3月に策定しました。

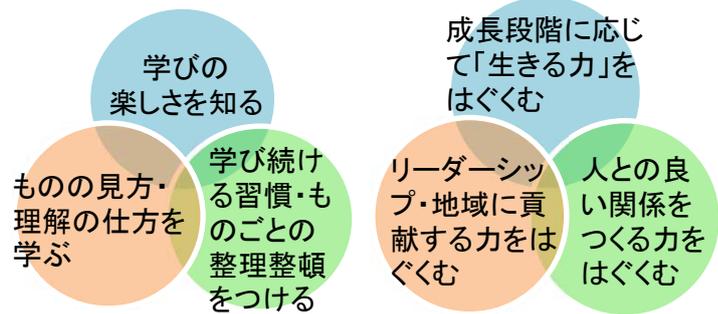
【教育施策の基本方針】

1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ
4. 地域と協働して活躍する人を育てる
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる

奈良県教育が目指す方向性を「本人のための教育」とし、一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐくむ本人のための教育を行います。

「学ぶ力」をはぐくむ

「生きる力」をはぐくむ



もっと良くするために

奈良県教育振興大綱に沿った取組を推進するため、**評価指標に基づく検証**を行います。

具体的な教育施策の実効性を高めるため、**県と市町村が協働して教育施策を推進**します。

○奈良県総合教育会議の開催(1百万円)

- ・ 知事と教育委員会で奈良県教育振興大綱の評価指標に基づく検証や教育施策に関する課題の共有や解決策について協議を行います。



奈良県総合教育会議

○奈良県教育サミットの開催(2百万円)

- ・ 県と市町村が教育課題について情報等を共有し、協働して教育施策を推進します。



奈良県教育サミット

令和4年度予算案 3百万円

19 文化の振興

(74) 文化の振興

ここまで良くなってきました

奈良県文化振興条例を制定し、歴史文化資源の継承と活用及び文化活動を両輪とした県の特性を生かした文化を振興し、文化の都としての奈良県を創ることを宣言しました。

- 奈良県の文化振興は、奈良県文化振興条例を含め以下の条例を中心に進めています。
 - ・奈良県文化財防火対策推進条例(R2年10月1日施行)
 - ・なら歴史芸術文化村条例(R2年10月8日施行)
 - ・奈良県文化振興条例(R3年4月1日施行)

奈良県文化振興条例を基に、奈良県文化振興大綱を改定し、(仮称)文化活動振興大綱と(仮称)文化資源活用大綱の2つに分け策定を進めています。

- それぞれの基本理念を明確化
 - ・(仮称)文化活動振興大綱
心を耕し、内面を豊かにする文化活動を促す
 - ・(仮称)文化資源活用大綱
文化資源との対話によるその本質的価値の理解
- 分野の特性に応じた施策の方向性を提示

もっと良くするために

(仮称)文化活動振興大綱、(仮称)文化資源活用大綱、文化財保存活用大綱の3つを柱とし、それぞれの基本理念に基づきつつ、相互連携を図りながら、奈良県の文化振興を進めます。

※(仮称)文化資源活用大綱に関する施策は、「(75)文化観光推進・歴史体験 なら記紀・万葉プロジェクトの継続展開」に、文化財保存活用大綱に関する施策は「(76)文化財の保存と活用」に記載

- 奈良県文化振興戦略懇話会において文化振興に係る諸課題について、有識者より意見を聴取し、県が総合的に検討
- 音楽団体との連携による未来の演奏家の育成(10百万円)
 - ・小・中学校等での公演によるすそ野拡大
 - ・高等学校等での公演・技術指導による人材育成
- 「ムジークフェストなら2022」の開催(116百万円)
- 障がいの有無や年齢などにとらわれず「みんな」が参加し「たのしむ」大芸術祭を開催(68百万円)
- 県立ジュニアオーケストラ運営事業(8百万円)
- 県内文化団体つなぐイベント推進事業(6百万円)
- 美術品鑑賞等を通して、多様な文化・美術を楽しめる機会を創出するため、県立美術館展覧会を開催(38百万円)
- (新)県立美術館開館50周年記念特別展プレイベント「やまとぢから 仮面芸能のふるさと奈良(仮称)」を開催(20百万円)



県立ジュニアオーケストラ



ムジークフェストなら



奈良県みんなでのたのしむ大芸術祭

令和4年度予算案 266百万円

ここまで良くなってきました

日本博のスキームを通して、奈良県の世界遺産の魅力を全国的に発信し、良質な誘客、周遊を推進してきました。

- 日本書紀完成・藤原不比等没後1300年記念シンポジウム
- 聖徳太子没後1400年関連イベント 等



聖徳太子没後1400年
法隆寺特別公演芸能絵巻

WEB会議などを活用し、奈良県の歴史文化資源を活かした文化・芸術分野での交流事業について、中国清華大学と協議を進めました。

歴史的な記念年等に合わせた歴史文化資源活用の主要テーマを設定し、多彩な事業展開により、多くの方に「記紀・万葉」になじみを持ってもらいました。

- これまでの主要テーマ
2012年 古事記完成1300年
2020年 日本書紀完成1300年
藤原不比等没後1300年
2021年 聖徳太子没後1400年

- これまでの主な事業
連続講演会、ウォークイベント、冊子制作 等



記紀・万葉集大成連続講演会

もっと良くするために

「文化資源活用大綱」に基づき、奈良県の歴史文化資源の活用を推進します。

古代国家が成立した飛鳥時代をテーマに、本県が持つ歴史文化資源の魅力を発信し、誘客を促進します。

- 飛鳥宮跡再現事業
往時の都の魅力を
実感できるコンテンツ
を制作
- 飛鳥の都・古典芸能
再現プロジェクト
伎楽等の舞楽に関連した催しを実施



飛鳥宮跡

歴史文化資源との対話を通じ、歴史文化の内容、その成立過程や時代背景などについて、幅広く考えて感じていただく取組も充実していきます。

令和4年以降の歴史テーマ

- ・2022年 壬申の乱1350年
- ・2023年 天武・持統天皇とその時代
- ・2024年 世界遺産「飛鳥・藤原」

中国清華大学との交流事業を進めます。

- (新)清華大学芸術博物館において、古代中国と奈良を結ぶアジア交流史をテーマとした展覧会を開催



清華大学芸術博物館

壬申の乱1350年事業を展開します。

- 講演会やウォークイベントの開催
- 壬申の乱ゆかりの地を巡る周遊イベントの開催等



ウォークイベント

文化施設を活用し文化観光を推進します。

- 県全域で、文化観光拠点施設や世界遺産を活用した事業を展開し、地域活性化を推進

令和4年度予算案 309百万円

(76) 文化財の保存と活用

ここまで良くなってきました

県内の文化財の保存と活用の指針となる「**奈良県文化財保存活用大綱**」を、令和3年6月に策定しました。

文化財の保存と活用の視点

1. 保存と活用の一体性
2. 文化財の把握の必要性
3. 修復等の透明化・標準化
4. 人材育成
5. 地域づくり
6. 持続する文化財保護



文化財建造物の修理の様子
(県指定文化財万法寺本堂)

文化財の防火対策を総合的かつ計画的に推進するため、「**奈良県文化財防火対策推進条例**」を制定しました(R2年10月1日施行)。

文化財の防火対策の推進に関する基本理念を定め、県や文化財所有者の責務等を明らかにするとともに、文化財の防火対策を推進する基本的事項を定めることにより、文化財の防火対策を総合的かつ計画的に推進し、文化財を次世代に確実に継承します。

もっと良くするために

奈良県文化財保存活用大綱に基づき、**文化財の保存と活用の取組を推進**します。

- 文化財保存事業費補助金
 - ・国指定及び県指定文化財等の保存、修理、買収等に関して補助
- (新)第64回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会
 - ・無形民俗文化財に対する理解と認識を深めるため、各府県に伝承されている民俗芸能を一堂に集めた公演を実施
- (新)史跡太安萬侶墓の整備活用
 - ・保存活用計画を策定し、今後の史跡整備等の方針を検討



史跡太安萬侶墓

奈良県文化財防火対策推進条例に基づき、**文化財防災対策を推進**します。

- 文化財防災対策の構築
- 防災施設等整備・防災設備点検等への支援



文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議

活用に関する理念及び原則を示すことで、文化財の活用の促進を検討しています。

文化財の活用に関する本県の姿勢を明確にし、根本となる理念及び原則を示すことで、活用を促進し、文化財を未来につなぐことを目指しています。

令和4年度予算案 636百万円
[債務負担行為 9百万円]
令和3年度2月補正予算案 39百万円

(77) 飛鳥・藤原の世界遺産登録

ここまで良くなってきました

平成19年「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」が世界遺産暫定一覧表に記載されました。

○将来の世界遺産候補となる暫定一覧表へ記載された後、世界遺産登録に向けて必要な資産価値の証明、保護措置の整備、普及啓発活動などを進めてきました。



主要構成資産である藤原宮跡

推薦書(素案)の提出

R2年、R3年の3月に文化庁へ推薦書(素案)を提出しました。文化審議会世界文化遺産部会での審議、課題の提示などを受けて、推薦書(素案)のブラッシュアップを行ってきました。

普及啓発活動の取組

「飛鳥・藤原」の世界遺産としての価値の理解や、登録への機運醸成を図るため、首都圏、県内などで講演会の開催、世界遺産ジャーナルの発行など、多くの方々に「飛鳥・藤原」への関心をもってもらいました。



世界遺産ジャーナル創刊号

もっと良くするために

令和6年7月の世界遺産登録を目指します。

推薦・登録の準備

R4年3月に推薦書(素案)を提出し、同年の国内推薦決定を目指します。正式推薦に必要な推薦書の修正や、さらなる資産の保護、必要となる課題の解決を図ります。

構成資産の整備

主要構成資産である飛鳥宮跡の暫定整備を行います。飛鳥宮跡と飛鳥京跡苑池の発掘調査、史跡・景観整備を進めていきます。



飛鳥宮跡



飛鳥京跡苑池

登録へ向けた普及啓発の継続

「飛鳥・藤原」世界遺産登録にむけて、橿原市・桜井市・明日香村と連携し、首都圏および県内においてシンポジウムや普及啓発のイベントなどを開催、世界遺産ジャーナルを引き続き発行し、県内外においてさらなる登録への機運醸成を図ります。

登録までの最短スケジュール

- R4年12月 国内推薦決定
- R5年 2月 推薦書をユネスコへ提出
- R5年 9月 イコモス現地調査
- R6年 5月 イコモス勧告
- R6年 7月 登録審議・登録

令和4年度予算案 141百万円

(78) なら歴史芸術文化村の活用

ここまで良くなりました

なら歴史芸術文化村が、令和4年3月21日(月・祝)に開村します。

「なぜ？」が芽生える。
「知る」を楽しむ。

活動の理念

- 来村者との対話や交流を重視した双方向のプログラムによる取組を展開し一人ひとりの感性や知識、関心に寄り添い、自発的な学びを支える
- 文化村近傍だけにとどまらず、山の辺の道など関連する地域を一体としてとらえた地域振興策等を展開
- 文化村における取組の質の向上のため、多種多様な分野の人脈を構築

なら歴史芸術文化村



文化財修復作業の公開、対話を重視した解説プログラム



デジタル技術等を活用した五感で文化財を感じる体験 **歴史**



奈良県の食と農や伝統工芸を体験して学ぶセミナー



県産食材と大和平野への眺望が楽しめるレストラン **賑わい**



幼児期からアートや音楽を通じて創造性や表現力を育むプログラム



アーティストとの交流や芸術文化活動の場を創出 **芸術**



道の駅「なら歴史芸術文化村」(天理市杣之内町437-3)

もっと良くするために

なら歴史芸術文化村を**歴史文化、芸術文化の推進拠点**として活用します。

歴史文化資源の継承・活用事業 (205百万円)

- 文化財修復作業の公開
- 修復された文化財の展示
- 社寺・修復関係者など”語り部”との交流
- VR映像、触れるレプリカ等による文化財鑑賞
- 「古代ものづくり」等の体験プログラム
- 修復作業の担い手育成(建築大工等)

学芸員等が対話形式により解説

芸術文化活動の振興事業 (60百万円)

- 幼児向けアート・音楽プログラム
- 国内外のアーティストの招聘・交流(作品展示、ワークショップ等)
- 能楽体験教室
- ホール等を活用した芸術文化イベント



来村者と地域の交流促進に活用します。

観光・産業等の分野と連携した地域振興事業 (12百万円)

- 文化村フェスティバル
- 食と農について学ぶ講座・料理教室
- 県産農産物等の魅力を発信するフェア
- 伝統工芸ワークショップ・展示会
- 歴史文化資源や芸術、観光などの情報発信

持続的・効果的な施設運営を図ります。

官民連携による運営等 (459百万円)

- コミッション、運営協議会
- 天理駅、奈良公園との直通アクセス
- 情報発信・プロモーション
- SNSの活用
- ジャーナル発行
- 教育旅行誘致など



©NARA pref.



令和4年度予算案 736百万円

20 海外との交流展開

(79) 国際交流の強化・拡大と東アジア地方政府会合の充実発展

ここまで良くなってきました

お互いに学び合う姿勢で国際交流を続けてきています。

- 中国・陝西省と韓国・忠清南道とは、R3年で友好提携を締結してから10周年を迎えました。



中国・陝西省との10周年記念イベントの様子(県コンベンションセンター)

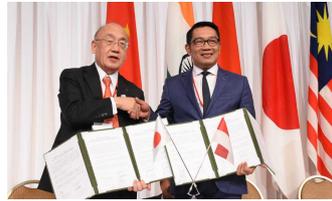


百済文化祭での10周年記念ブース出展の様子(韓国・忠清南道)

- スイス・リース林業教育センターの協力を受け、森林管理を担う人材を養成する「奈良県フォレスターアカデミー」をR3年4月に開校
- ウズベキスタン・サマルカンド州と、R3年12月に友好提携を締結
- 中国・清華大学とは、今後の交流を進めるためにWEB会議を定期的実施

東アジア地方政府会合では、会員地方政府が共通する課題について、学び合い、交流を深めてきました。

- 会員は2010年設立時の6カ国40地方政府から7カ国75地方政府に増加
- 次回の第11回はインドネシア・西ジャワ州、第12回は中国・山東省臨沂市で開催



西ジャワ州との会合開催合意覚書締結(第10回東アジア地方政府会合)



第4回アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム

もっと良くするために

奈良県の国際交流の強化・拡大を図ります。

- 友好提携地方政府への訪問団等の派遣・受入等(21百万円)
 - ・スイス・ベルン州に高齢者分野等にかかる訪問団を派遣
 - ・(新)ウズベキスタン・サマルカンド州に訪問団を派遣
 - ・友好提携地方政府からの訪問団を受入
- 中国・清華大学との交流(180百万円)
 - ・清華大学芸術博物館において奈良の歴史文化資源を活かした展覧会を開催
 - ・展覧会の会期中に北京市内でフォーラムを開催
 - ・専門家及び学生等の交流を実施
- 新たな海外地方政府からの訪問団を受入れ、友好提携を推進(1百万円)



ウズベキスタン・サマルカンド州との友好提携締結

- 奈良県フォレスターアカデミーの学生がスイスの森林管理を学ぶため、リース林業教育センターと交流事業を実施(15百万円)
- BCC※(バスクカリナリーセンター)とNAFICが連携協定を締結し、交流事業を実施(8百万円)
※BCC…スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門大学

東アジア地方政府会合の充実発展に取り組みます。

- 東アジア地方政府会合の開催等(33百万円)
 - ・インドネシア共和国・西ジャワ州で開催される第11回東アジア地方政府会合へ奈良県代表団を派遣
 - ・日本アスペン研究所と連携し、NAFICでのセミナー開催を支援するとともに、(新)外国語セミナーを誘致
- 奈良平城京-ERIAアジアコスモポリタン賞の第5回受賞を記念して、授賞式及び受賞記念フォーラムを開催(25百万円)

令和4年度予算案 283百万円